

力を合わせ、行動を起こそう

住みよい水之上を目指して

～ 三和づくり計画 ～



初 版

平成24年3月

水之上地区公民館（三和センター）

力を合わせ、行動を起こそう 住みよい水之上を目指して ～ 三和づくり計画 ～

も く じ

1	この計画書について	
(1)	位置づけ	1
(2)	目的図	2
2	わたしたちはすすめます	3
3	みずのうえの今昔 ^{いまむかし}	
(1)	水之上地区の歴史	4
(2)	そして、水之上のいま	5
(3)	水之上地区の人口の推移	7
4	「水之上はこうありたい（行動計画）」 「こうありたい」のため、「だれが」、「いつ」、「何をする？」	8
5	振り返り（実践・見直し）	26
○	参考資料	
〈資料1〉	第4次垂水市総合計画抜すい	27
〈資料2〉	「水のある風景（平成20年度地元学）」	28
〈資料3〉	策定にあたって	30
(1)	アンケートの実施と結果	31
(2)	「三和づくり計画」策定委員会	
①	「三和づくり計画」策定委員会規程	38
②	策定委員名簿	39
③	策定スケジュール	40
〈資料4〉	新聞各紙で紹介された水之上地区の記事（平成23年）	41
○	策定経過	43
○	あとがき	44

○表紙の絵画について

- ・ 画：^{わだかなえ}和田香苗 画伯（1897生～1977没）
洋画家・和田英作画伯の実弟
- ・ 題：不詳（現在の垂水カントリー倶楽部付近から水之上地区を望み、さらに桜島を遠望する洋画である）
- ・ 制作年：1950年代
- ・ 所蔵：垂水市

1 この計画書について

(1) 位置づけ

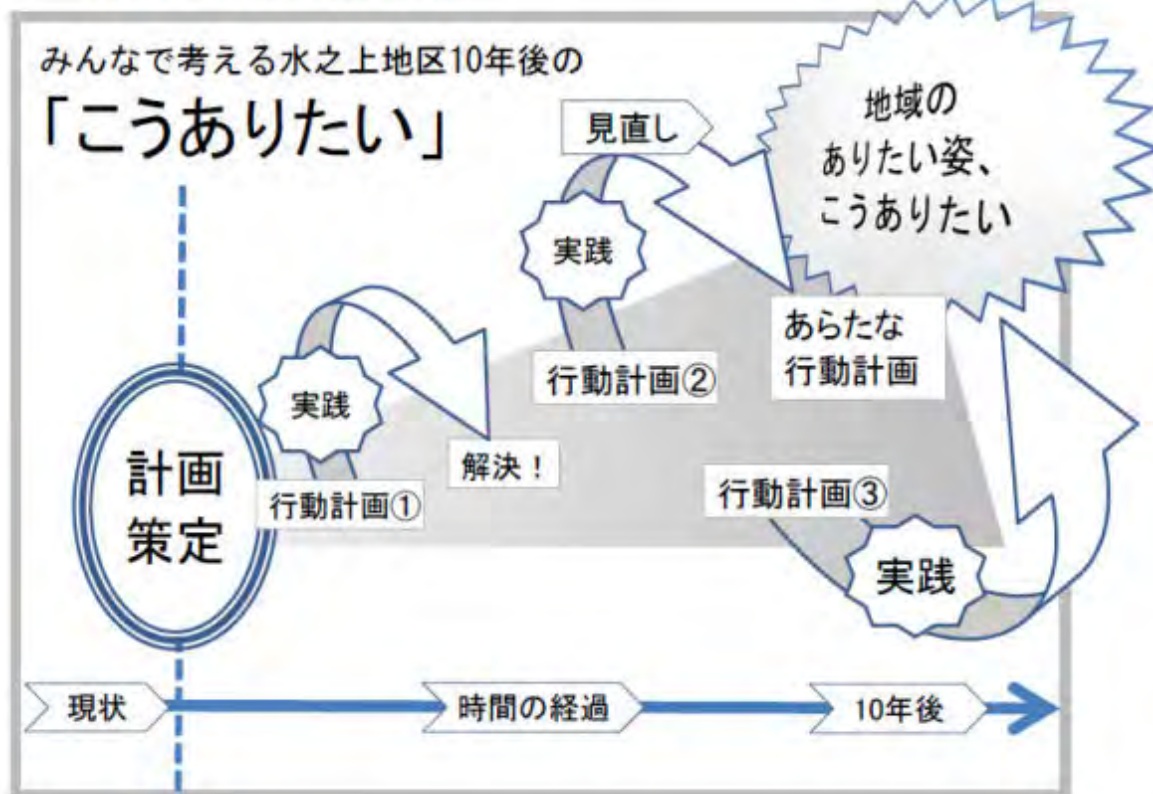
- ・「三和づくり計画」は、「三和づくり計画」策定委員会が中心となってこれからの水之上のことを考えた水之上地区のための計画です。
- ・わたしたち「三和づくり計画」策定委員会では、アンケート（P30～37）を行って、各振興会長や地区の多くの方々の協力で意見や要望などを集め、それをもとに「水之上はこうありたい」に整理しました。
- ・そして、これらの「こうありたい」を実現するために「だれが」、「何をする」のかを、具体的な行動計画（P8～25）として作り上げました。
- ・この計画の期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とし、期間中であっても計画がもっと良くなるように話し合いをして、見直しができるものとします（P26）。
- ・この計画は、第4次垂水市総合計画の基本構想にもとづく「地域振興計画」の水之上地区版（P27）です。わたしたちは、行政とも力を合わせ、協働して住みよい水之上を目指します。



▲ 猿ヶ城溪谷

(2) 目的図

三和づくり計画

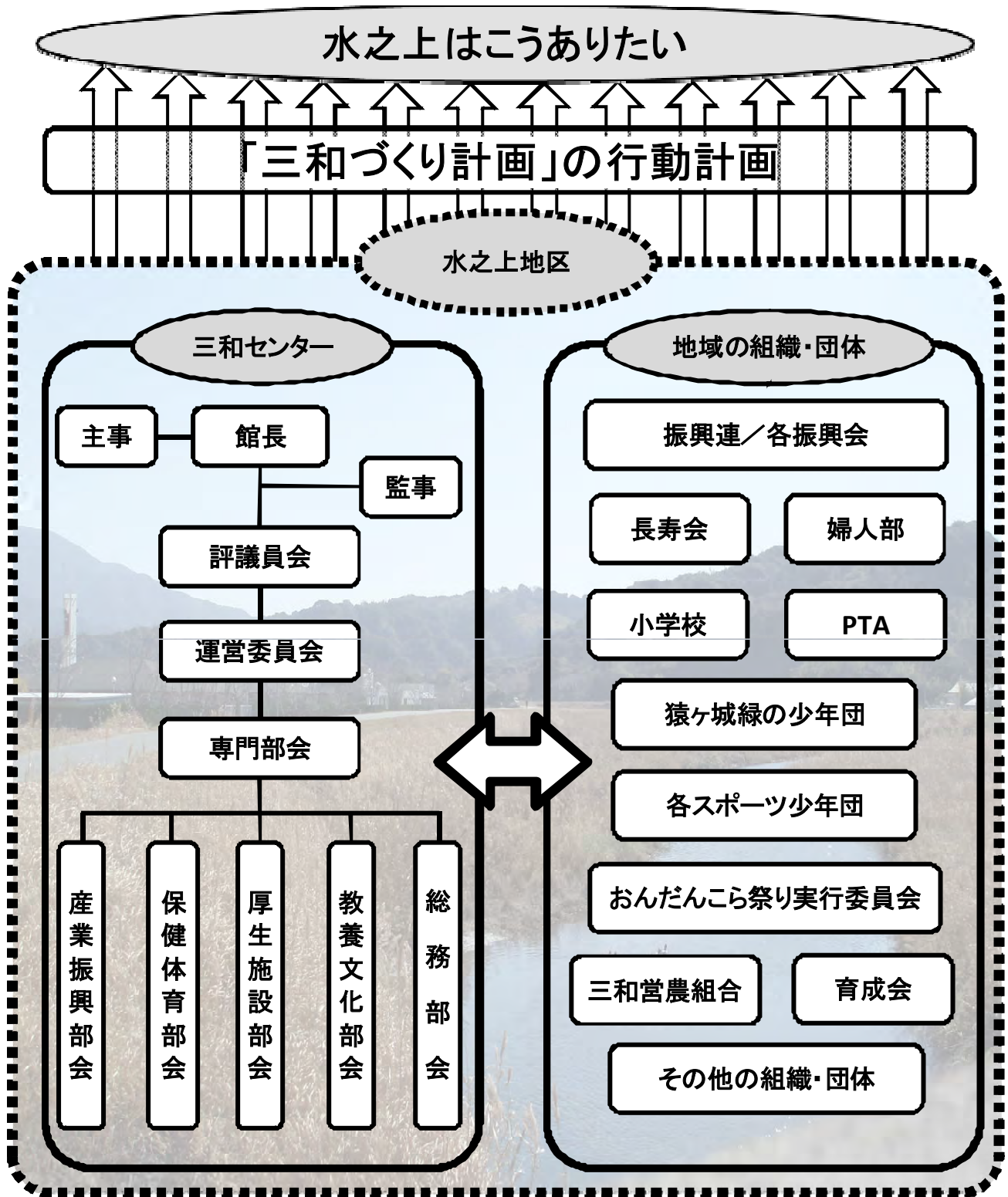


力を合わせ
行動を起こそう
住みよい水之上を目指して



▲ 市道浜平大都線沿いで取り組まれている「菜の花ロード」(平成 23 年4月)

2 わたしたちはすすめます



「三和づくり計画」は、三和センターが拠点となって推進や見直しをしていきます。
行動計画の実践にあたっては、三和センターを構成する専門部会などの各機関や、地域のさまざまな組織・団体が一体となって、現在の協力体制を維持しつつ取り組みます。
「水之上はこうありたい」に向かって、かねての地域活動をより充実させ、地域をもっと元気にします。

3 みずのうえの今昔 いまむかし

(1) 水之上地区の歴史

水之上地区は三つの地域即ち本城・高城・新御堂で構成されていますが、いつ頃からこの地域に「人」が住み始めたのでしょうか？根拠となる証拠があります。それは「横道遺跡」といって垂水ゴルフ場建設の時に見つかりました。縄文時代の晩期から弥生時代を経て古墳時代までの壺や甕、石器、鉄器までありました。また、弥生時代の遺跡は本城々跡の下、高城段西迫、新御堂平治笠などにあります。約三千年近く前からこの地域には人が生活をしていました。



▲ 手貫神社(上之宮神社)本殿

それから時代が下って、奈良時代和銅6年(西暦713年)に大隅の国が建国され、垂水は下大隅郡に属します。それ以後で最初にこの水之上で登場するのが手貫神社(上之宮神社)で、はっきりした年代は不詳なのですが、平安時代の末期までには創建されていたと言われます。その当時垂水は荘園と神社領がほとんどで、それぞれの所有者の間で争いが多く、特に手貫神社と神貫神社との争いが有名です。手貫神社は南薩、開聞の鹿児島大明神の応援を得て、神貫神社を新城に追いやったとのこと、そのお礼に下宮にこの鹿児島大明神が鎮座することになりました。手貫神社は垂水で一番社格の高い郷社で親しまれています。

西暦1185年、壇の浦の敗戦で平家は落人となり九州の各地に隠れました。特に大隅半島には多く垂水にも数カ所あって、中でも段が知られています。



▲ 勝軍地蔵(平城18年に開眼500年を迎えた)

中世の山城で代表的な高城は、13世紀に種子島より肥後氏が移ってきて約250年間治めていましたが、1412年に本城の地頭としてやってきた伊地知氏に大永2年(西暦1522年)に亡ぼされてしまいます。肥後氏が残したもので有名なのが勝軍地蔵で、垂水で唯一の鹿児島県指定文化財です。

一方の伊地知氏は、石川県の名峯白山



から白山神社を^{かじしやう}勸請して、^{おんだん ころ}女勇河原祭りの起源となっています。

大永2年の両者の戦いの時に戦死した^{ちゆうまん さえもんのじやうしげより}中馬左衛門尉重頼が祭神として祭られているのが^{あらひと}荒人神社で、彼の人を使用

▲ おんだんころ祭り(平成 21 年4月)

していた大刀が長さ 193cm、重さ 3.5 kgで今、上之宮神社に預けられています。伊地知氏も約 180 年間統治してきましたが、宮崎県の倉岡に配置替になり移っていきました。

その後、島津家が垂水を統治するようになり、水之上は「在」と呼ばれる農村になり、農民は重税に喘ぐこととなります。普通五公五民といわれる納税率は、薩摩では八公二民という途方もない重税で苦しめられます。この間、垂水島津家七代目久治公から九代の^{たかとも}貴儔公まで、約 50 年間をかけて「よめじょ川疎水」を完成させ 200 町歩余の開田をなしとげます。しかし農民は「^{かどわり}門割制度」による税の連帯保証制に徹底的に苦しめられ、明治以後も地主による重い小作料に難儀をして、戦後の農地開放によりようやく陽の目を見る状態でした。

現在、高度経済成長は終わりをつげ、物質万能主義から心の回帰、自然への回帰に気付き、持続可能な社会を目指す時に、水之上の古えを振り返って新しい時代に対応していくことが必要かと思えます。温故知新によって。(中馬 吉昭氏)

(2) そして、水之上のいま

① 地域の子どもたちと地域活動

水之上小学校には児童 75 名、水之上保育園には園児 57 名(ともに平成 24 年 2 月現在)が在学、在園しており、毎日元気に登校、登園する姿が見られます。子どもたちと、地区公民館(三和センター)や長寿会など地域との交流も活発に行われています。また、平成 22 年 4 月からは、水之上小学校区に市内 2 箇所目となる児童クラブも開設され、地域の子育て環境がさらに充実しています。



▲ 水之上小学校

なお水之上中学校は、生徒数の減少等に伴い昭和 46 年に最後の卒業式(卒業生総数 2,203 名)が行われ、垂水中学校(現垂水中央中学校)と統合されています。

水之上では、かねてからさまざまな組織・団体が地域活動に取り組んでおり、地区公民館(三和センター)は活動の拠点として日々活発に動いています。中

でも、地区公民館と各振興会が協力して、定期的には本城川流域の清掃活動に取り組んでおり、この活動は河川愛護の取組として高く評価されています。

② 産業振興



▲ 水之上に広がる田んぼ

農業の分野では、水稲のほか園芸や果樹、畜産等、水之上ではさかんな営農活動が行われていますが、他の多くの地区と同様、高齢化や後継者不足に伴う生産力の低下や耕作放棄地の増加など課題も多く見受けられます。

そのような中、水之上の営農の将来を考え、農作業の受託や農業機械の共同利用を中心に取り組む組織として、平成 23 年 7 月に「垂水市水之上地区三和営農組合」が設立されました。平成 24 年は水稲の収穫作業を受託し、平成 25 年からは田植え作業なども受託できるよう組織の充実を図っていくこととしています。

鹿兒島県農業開発総合センター果樹部（旧県果樹試験場）は、昭和 2 年に創設された県の果樹研究の拠点です。昭和 33 年に新御堂から現在地（本城）に移転しており、水之上の気候条件を生かしながらそれぞれの時代に対応して、新しい品種の開発や栽培技術の確立に向けた試験研究を続けています。

そのほかの産業として地域の大きな存在となっているのが（株）理喜です。昭和 48 年に操業を開始した鹿兒島工場（本城）では、高い品質の繊維・衣服等の製造を通じて地域に活力を与え、また、地域の雇用を支えています。

③ 地域おこしの取組

水之上には、垂水市最大の郷土伝統行事「おんだんこら祭り」があり、毎年多くの市民で賑わいます。また、平成 22 年 4 月、「猿ヶ城溪谷森の駅たるみず」がオープンし、溪流や山が持つ魅力を発信しています。

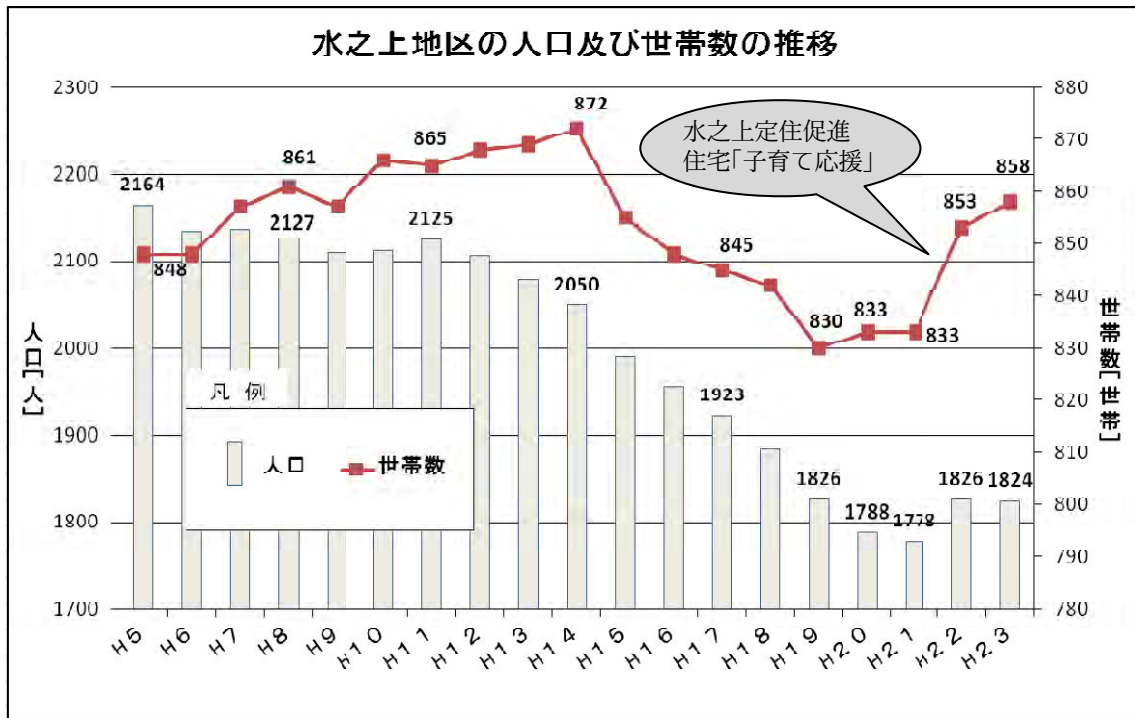
中馬吉昭・信子夫妻が管理する「垂水千本イチョウ」は新しい観光名所となり、黄葉シーズンになると周辺は大変な賑わいとなります。

山や川は住む人や来る人を魅了します。「三和づくり計画」の中にも、水之上に暮らす人々が地域にある優れた自然環境や地域資源を自分たちのものとして守り育て、それらを活用した地域おこしを推進していくためのアイデアが盛り込まれています。

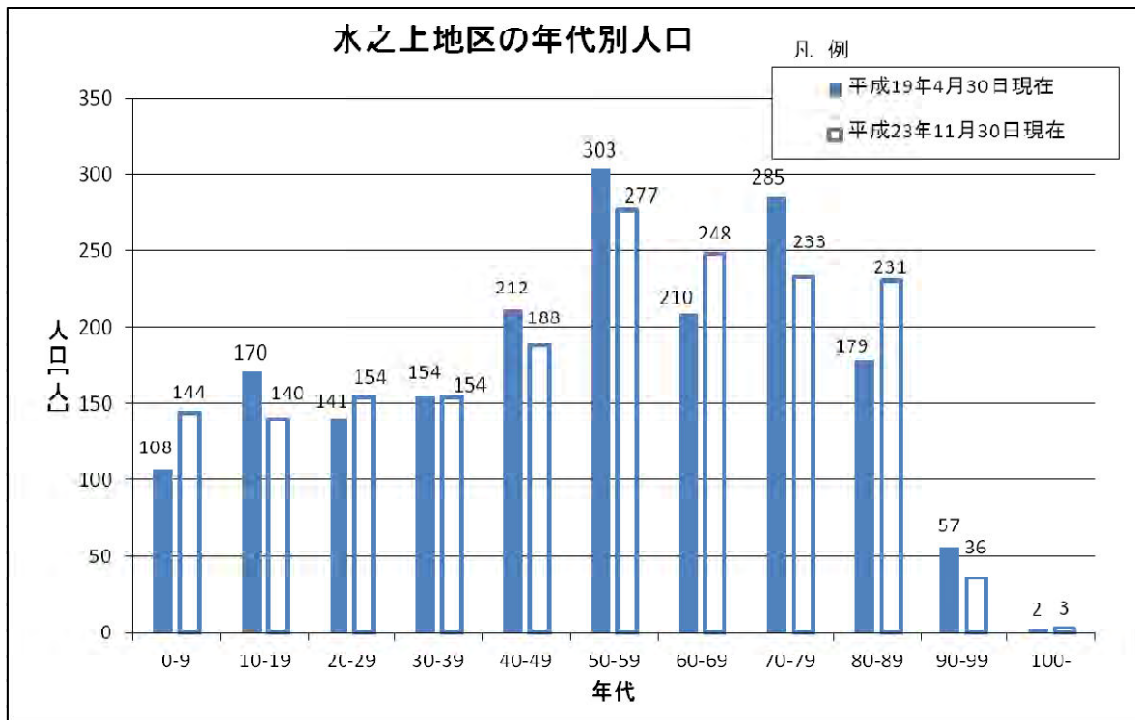


▲ 垂水千本イチョウ

(3) 水之上地区の人口の推移



資料：住民基本台帳





資料：住民基本台帳

水之上地区の人口は減少傾向であったことが分かりますが、平成21年度から市が行っている水之上定住促進住宅「子育て応援」が地区全体の人口及び世帯数の減少に一定の歯止めをかけていると考えられ、若い年齢層の増加と合わせて、水之上地区の大きな特徴となっています。

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
意見を整理するためのキーワード。	「三和づくり計画」策定委員会では、平成23年9月に地区内全戸で実施し、地区のみなさんに協力いただいたアンケートの自由意見やアイデア(総数231)をもとに、委員会で分析討論を重ねました。意見等の整理、絞り込み作業の末、22項目の「水之上はこうありたい」にまとめることができました。 なおアンケート内容や集計結果は、P30～P37に記載しています。	話し合いの中で「だれが動くのか」を明らかにし、動きの中心となる組織・団体名を記載。 市が動く場合は、中心となる課名も記載。		「水之上はこうありたい」を実現するために、委員会では地域でやりたいことや行政へ要望したいことを行政とも協働して話し合い、「だれが」、「いつ」、「何をする？」を、前期～中期～後期に分けてなるべく具体的に記載しています。今、地域でやっていることも当然含まれています。 □の中は、ひとつの期に限らず引き続き取り組む内容を記載しています。 行政は、地域が行う「三和づくり」を応援します。			平成24年1月17日(火)及び1月24日(火)に開催された、第9・10回「三和づくり計画」策定委員会において、出席した関係課長等が発言した見解や助言をもとに作成しています。
福祉	子どもからお年寄りまでいきいきと助け合っている生活できる環境をつくりたい	長寿会		高齢者学級への加入促進、園児・児童とのふれあい活動の推進			・乗合タクシーの地区内降車は現行制度上難しい(企画課)。 ・地区内での移動、乗降については研究課題(社会教育課)。
		市	社会教育課	研修視察の際は日程調整のうえ、バス手配等協力する			
	各地の「無人販売所」を集約し、出品者の生きがいにつながるような共同販売所をつくりたい	地域 公民館(産業振興部会)		出品者組合をつくり、販売場所を考える 無人販売をしている人と協議	販売場所の設置		・森の駅での飲食や物販について、農政局(国)と協議中。許可が下りたら大いに活用されたい(商工観光課、農林課)。 ・共同販売所の運営面は、新城地区「おたけどんの里」を参考に(農林課)。 共同販売所を開設するときには、運営しやすく、長続きするための工夫を(生活環境課)。 ・「おたけどんの里」は団体としてイベントへの出品も行っている(土木課)。
		市	農林課	要請に基づき指導、助言(販売所開設、栽培指導、生産者、出品者同士の連携含む)			
高齢者の利便性を高めるために乗合タクシーの便数を増やしてほしい	三和センター 振興連		市に対して増便を要請 利用者の声を集める			・国の補助金を受けて運行しており制限がある。増便については利用が増えないと厳しい状況である(企画課)。	
	市	企画課	制度運用の中で、より利用しやすいよう改善に努める				

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をやる？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
福祉	子どもや高齢者が安心安全に暮らせるきずなづくり  ▲ 水之上児童クラブ	振興連 地域		高齢者の把握(独居、高齢者夫婦世帯)、安否確認(意思表示)は今後の協議 民生委員を中心に見回り活動を行う 災害時の協力・共助(婦人部) 子どもたちへの声かけ、あいさつ、見守り			・FMを活用した戸別受信機(ラジオ)を全戸配布できないか、H23年度から検討に入っている(総務課)。 ・安心安全のための情報提供手段として、携帯登録をお願いしたい(総務課)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <input type="radio"/> 垂水ほっとメール <input type="radio"/> </div>  防災無線の内容が携帯電話に配信される「垂水ほっとメール」登録のためのQRコード
		市	総務課 市民相談サービス課 保健福祉課	防災行政無線放送、戸別受信機の整備を検討する 防犯灯設置、放送施設整備補助について、各振興会の相談に応じる 「第5期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画(H24～H26年度)」で、地域支援事業等を探り入れたメニューの充実を図る 水之上地区の学童保育も引き続き助成しながら運営していく			
	三和センター 振興連 市	空き家の調査、掘り起こし、データベース化 企画課	空き家バンク制度を活用し、全国に向けて情報発信			・賃貸、売却の物件あればぜひ連絡いただきたい。調査のうえ、市のホームページへ掲載する(企画課)。	
教育	校区を挙げて魅力ある地域・学校づくり 猿ヶ城で子どもたちが泳げるようにしたい	小学校 三和センター 地域 小学校 市	合同運動会の充実 ふれあい活動の推進 たるみず学校応援団への協力 遊泳に対する生徒、児童への注意喚起	還暦運動会の開催(同窓会) 卒業生(水之上出身者)を招待する		・遊泳については、学校教育課にはそれを許可・決定するなどの権限がない。所管課の検討が必要。今後の実現の可能性を期待する(学校教育課)。 ・何より安全対策に配慮しながら、少しでも形にできるよう前向きに検討する。その際は、PTA、地域の協力をお願いしたい(市長)。	
		市	所管課の検討から	監視員を増やす検討、遊泳可能時間を設ける等の検討			

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
若者	若者が行事に参加しやすい環境をつくりたい	三和センター 各少年団		役割を準備し、期待される仕掛けをつくる 青年部の組織を育成する メンバーを把握し、少年団同窓会を開催する			・猿ヶ城緑の少年団の活動に、市も協力していきたい(農林課)。 ・青年部(団)の育成は県全体の課題。「ボランティア少年団」の水之上地区卒業生が青年部活動ができれば良い。動きがあれば協力したい(社会教育課)。 ・若者に汗をかかせれば自ずと地域の中に入って行く(総務課)。
	企業誘致、働く場の確保 若者が住める生活環境を考えよう	三和センター 振興連 市	企画課	フェリー増便を行政に呼びかける 企業誘致、働く場の確保を市に継続して要望する	水之上らしい加工品を作る		・企業へ向けて、垂水のPRを継続する(企画課)。 ・フェリー会社にもその都度要望しており、引き続き要望を続ける(企画課)。
三和センター	より開かれた三和センターづくりに努める	三和センター		三和だより発行回数増 子育て交流の場の創設			・三和センターの情報を積極的に提供いただきたい(総務課)。 ・子育てグループの設立支援等については、市の社会福祉協議会の専門職員に協力を求めることを検討されたい(保健福祉課)。
		市	総務課 保健福祉課	広報誌での情報発信協力 子育て交流の場の創設に関する支援、協力			

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をやる？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
三和センター・環境・川	浜平大都線をフラワーロードにしよう 水之上の良さは自然、菜の花、稲穂や彼岸花が素晴らしいので、花の量を増やし、フラワーロードを整備 地域のシンボル本城川をフラワーロードに	三和センター 振興連 (子どもたちも一緒) 緑の少年団 振興連 土地改良区(水土里サークル)	農林課 商工観光課 土木課	何を植えるか検討 菜種の種蒔き 季節の花の植付(レンゲ・ひまわり・コスモス等) 第1日曜草払い	コンクールの開催 菜種油の販売	・中山間地域直接支払事業や農地・水保全事業における環境美化の部分で協議していただきたい(農林課)。 ・森の駅へ通じるフラワーロードへの種代等の予算化はできる範囲で検討したい(商工観光課)。 ・浜平大都線は、舗装面の余白部を利用してフラワーロードを進めていける。また、本城川の waterfront (外側の土手) の利活用の例がある(土木課)。 ・「道守(みちもり)制度」は、継続的な活動を条件として地域と市が協定を結ぶ制度。(土木課)。 ・通りごとに植える花を決めるという整理も一考されたい。できるだけ低木や花木を検討されたい(土木課)。	
				花植え	フラワーロードの継続、充実		種、苗、肥料代の予算化を検討する
三和センター	三和センターを避難所として充実してほしい 	三和センター 市	総務課 社会教育課	非常食・衣服等の充実、防災マップ作成、自主防災組織の充実、自治公民館と三和センターの連携を強化する	三和センターグラウンドのトイレについて、市へ改修(水洗化)を要請する	・市内4箇所の自主避難所整備後に要望があれば、三和センターあるいは周辺の整備にも取り組みたい(総務課)。 ・マップ完成次第全戸配布予定。配布後にご意見をいただきたい(総務課)。 ・トイレについては早急に関係課と協議したい(社会教育課)。	
				上記の支援	H23年度に津波、桜島に関する防災マップをはじめ、県も協力して本城川についてもマップを作成中。		トイレ改修の検討

▲ 水之上地区公民館(三和センター)

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
営 農	三和営農組合をしっかりと確立したい	営農組合		全体(19集落)を3つに分けて考える 現在機械を持っている方々をお願いして、受託を取り組む	組合として機械を取得、作業を受託	さらに受託作業を伸ばす 機械の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・営農組合の取組が他の地区にも波及するよう市としても協力していきたい(農林課)。 ・農業機械が老朽化した場合は、補助事業を紹介したい(農林課)。
		市	農林課	要請に応じ支援、事業の紹介を行う			
		県・振興局	農政普及課	要請に応じ支援、事業の紹介を行う			
	農作業上の環境に対するマナーの向上につとめる 高齢化、過疎化が進む中農業をどうするか	地域 営農組合		土地所有者や市へ放棄地の利用促進を呼び掛ける 機械リースの可能性を検討する			<ul style="list-style-type: none"> ・集落の会合等でもお互いに気をつけるといった話し合いを持っていただきたい(農林課)。 ・農業関係は産業廃棄物であるが、環境問題については市で連携して取り組む(生活環境課)。
市		生活環境課 農林課	農業者へ環境美化の周知・啓発 市民農園開設への動きがあれば、相談に応じる				
おん だん こ ら	女男河原をさらに充実したものにし、後世に残したい	おんだんこら祭り実行委員会		市内の郷土芸能の発表依頼	公開講座生作品展示 水之上の特産品(ふくれなど)の販売		<ul style="list-style-type: none"> ・森の駅への集客を図るため高隈山系登山と併せてPRを行う(商工観光課)。 ・周知のため、ポスター制作を早めに(商工観光課)。 ・白山祭や白山信仰を繰り返し周知することが大事(社会教育課)。 ・女男河原は“垂水市の祭り”。実行委員会から良い広報の形を聞いて発信する(総務課)。 ・女男河原とは別の時期に人が集まる地域行事、たとえば「新米祭り」を検討されたらどうか(総務課)。
		市	社会教育課 商工観光課 総務課	白山祭りのいわれの周知 情報収集、広報			

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
森の駅・温泉	<p>自然を活かした森の駅の整備をすすめる 森の駅の年間を通しての積極的な活用 森の駅へのアクセスをどうするか 猿ヶ城の温泉の有効活用をしたい</p>  <p>▲ 平成22年4月にオープンした「猿ヶ城溪谷森の駅たるみず」</p>  <p>▲ 森の駅を活用して開催した第9回「三和づくり計画」策定委員会(平成24年1月17日)</p>	<p>婦人部</p> <p>地域</p>	<p>特産品の開発・研究</p> <p>体験活動時に年間を通じて材料を提供できるような取組(そば・小麦・大豆など)</p> <p>市へ、森の駅から旧キャンプ場までの道路拡張、大野への道の整備を要請する</p> <p>市へ、森の駅へ温泉を引くように要望、整備してもらおう</p>	<p>特産品の販売</p> <p>起業！！</p> <p>グランドゴルフ大会を開催</p>	<p>ラジウム温泉公衆浴場(湯治場)の整備検討</p>	<p>・ホテルは土手、草植え等整備が必要で、森の駅建設当初に計画はあったが実現できなかった経緯があり、ホテル生息のための環境整備は難しい状況である(商工観光課)。 ・旧キャンプ場への市道拡張整備については、断念した経緯もあり、現状では厳しい(土木課)。</p>	
		市	<p>商工観光課</p> <p>H24年度以降多目的広場、イベント時の駐車場を整備する計画の推進</p> <p>旧餅井荘の冷泉を引き込み温泉として活用する計画の推進</p> <p>溪流沿いの遊歩道等、魅力ある本城川、猿ヶ城溪谷の魅力PRに取組む</p>	<p>農業委員会 農林課</p> <p>そば・小麦・大豆などを生産する具体的な計画に対し、地元の農業委員に協力を依頼する</p>			

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
イベント・教育	<p>各行事等の学校クラブ部活と振興会の連携 小中高生、若い親の地域活動参加 子どもから高齢者まで楽しく参加できるイベントを創る イベントのあり方を考えてみよう</p> <p>育成会のない振興会もある</p>	<p>地域</p> <p>PTA</p> <p>振興会 育成会 三和センター</p>		<p>地域行事（伝統・スポーツ行事）の何を残すか見直す</p> <p>学校へ参加を呼びかける</p> <p>グランドゴルフ大会を開催</p>	<p>地域外からの参加者を増やす手立てを考える 広報活動に力を入れる</p>	<p>後継者の育成</p>	<p>・森の駅のイベントに、水之上の小学生にも参加してほしい(商工観光課)。 ・地域で愛されてきた伝統的なものを子どもたちへ伝えていくことについて協力していきたい(社会教育課)。 ・交流を図りたいという目的の中で、夏場のイベントが多いようである。冬場、閑散期も考えてみては(土木課)。</p>
観光史跡	<p>文化財の散策ができるよう環境整備する 今ある観光資源を有効に生かしたい</p>	<p>各振興会 三和センター (教養文化部)</p> <p>地域</p>		<p>文化財まわりの清掃</p> <p>水之上の「文化財・観光マップ(集落おさんぼマップ)」を作る 地名の由来を調べ集める</p> <p>垂水千本イチョウの活用 (観光客の流れを水之上に引き込む)</p>	<p>インストラクターの育成・案内</p>		<p>・水之上地区の加工品、農産物等を前もってPRし、大野原いきいき祭り、垂水千本イチョウへの観光客を引き込んでほしい(商工観光課)。 ・5月の猿ヶ城ウォーキングを工夫してより充実したものとしたい。「たんど」との日程調整が必要(社会教育課)。 ・地域の方にも、その地域にある文化財を大切にしてほしい。地域と行政で協力して整備していきたい(社会教育課)。 ・文化財まわりの清掃に関連して、環境整備班の協力も考えられる(土木課)。</p>
環境	<p>地域の自然を活かした環境づくりにつとめる</p>	<p>振興連 婦人部 三和センター 緑の少年団</p> <p>市</p>	<p>土木課 商工観光課</p>	<p>花の種蒔き ホテルの生息のための研究(上新御堂)</p>	<p>ホテルの観賞会 (上新御堂)</p>	<p>「ホテル公園」の整備 (上新御堂)</p>	<p>・ホテルは民泊でも好評で、大事な資源。検証を行いながら土木課と連携して整備を検討する(商工観光課)。 ・調査、研究の成果をもとに整備を検討する(土木課)。</p>

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
環境	道路整備・交通安全・環境保全  ▲ 市道内ノ野線改良工事の状況(平成24年2月17日)	地域		堤防、追神橋付近の道路の拡張を市に要請する 集落の下水道(排水路)の整備を市に要請する 浜平大都線、瀬戸山線の交差点へ信号を設置するよう市に要請する			<ul style="list-style-type: none"> ・排水路については地域振興計画に記載されるものを優先的な順序をつけて整備していかなければならないと考える。 ・市道への街灯設置については、交通量や危険度など要件を加味する必要がある。現状では、基準等により設置しがたい状況(以上、土木課)。 ・信号機設置については、垂水幹部派出所に要望書の提出を、書き方については相談いただきたい(市民相談サービス課)。
		市	土木課	追神橋はH24年度工事着手予定			
			土木課 市民相談サービス課	県の河川敷地が市道となっている。市の長期計画に盛り込み、有効な事業費を活用して整備を行っていく計画である。 信号機設置は、市で設置できるものではないため、公安委員会関係と協議を重ねていきたい。			
	振興会の統合	振興連		振興会統合の協議			<ul style="list-style-type: none"> ・振興会合併奨励金の案を振興連で承認いただいた。市関係課と協議しながら進めていきたい(市民相談サービス課)。
		市	市民相談サービス課	振興会合併奨励金(案)による取組を進める			

4 「水之上はこうありたい（行動計画）」

キーワード	水之上はこうありたい	だれが ↓ ・地域 ・団体名 ・市 ・県、国	市役所等 関係課	いつ、何をする？			市役所関係課長等 の回答・見解	
				前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)		
環境	住みやすい環境づくり 災害防止のための取組 飼い犬、猫の管理向上	地域	市	土木課 農林課	地域環境づくりに努め、ごみ分別とリサイクルを推進する		<ul style="list-style-type: none"> ・砂防、急傾斜事業は県が取り組んでいる。次期計画に向けて、要望は絶えず行っている(土木課)。 ・治山については土木課と連携して取り組んでいる。国、県への要望を行っていく(農林課)。 ・地域環境づくりを進めていただきたい(生活環境課長)。 	
				生活環境課	空き地の利用を考える 山崩れ危険地帯の改善を市、県に要請 犬、猫の飼い方向上のための意識啓発を行う	国、県と連携し、計画的な整備を図る		立て看板の設置、広報、回覧等で、犬、猫の飼い方向上のための意識啓発に努める
川	きれいな本城川、井川を取り戻そう ・本城川、井川、嫁女川の水質改善 ・堤防や河川の草木の除去 本城川周辺及び堤防の整備	三和センター 振興連 地域	市	土木課	年1回の草払いボランティアで堤防をきれいに保つ		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアには感謝している。ぜひ継続していただきたい(土木課)。 	
				生活環境課 農林課	本城川沿いの道路改修を要望 川の草木除去、除去方法改善について県に要望	環境保全活動を行う		
				土木課 生活環境課 農林課	管理河川の土砂除去等、計画的な改善に努める 自主的な水質調査を定期的実施する 畜産農家との座談会等で、適正な処理ができるよう指導を行う			
		県		川の中の土砂(寄り洲)を取り除いて災害を未然に防止する、管理河川の計画的な改善に努める				



▲ 本城川

5 振り返り（実践・見直し）

- ・継続性のある計画であるために、わたしたちは毎年みんなで行動を確認しましょう。
- ・一度に計画の全部はできませんが、確認シートでひとつひとつの項目がうまく進んでいるかどうか、うまく進んでいなければどうすれば良いか話し合しましょう。
- ・行政には確認の結果を報告します。
- ・新たな課題が生まれてきたときは、水之上地区公民館の組織決定を経て書き加え、計画書の見直しにつなげます。
- ・見直し案等は、年4回の合同会議で随時提案を行い、年1回の総会の場で決定するものとします。

確認シート様式（案）

振り返りの年度：平成●年度（●年目）

確認日：平成●年●月●日

キーワード	「水之上はこうありたい」	取り組み状況 (凡例参照)	取組の状況や新たな課題 (自由に記載)
福祉			
若者			
...			
			(新たに加わった行動計画も書く)

凡 例

- ◎：達成した・解決した・改善した
- ：一定の達成・一定の改善（達成途上）
- △：取り組んだがうまく進まず、翌年度に継続するようにした
- ×：取り組まなかった

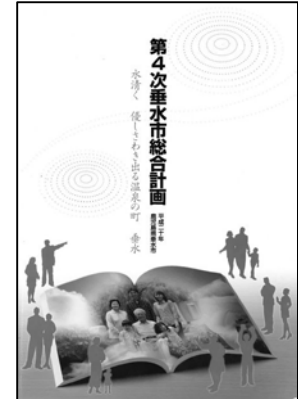
第4次垂水市総合計画基本構想（P23）より全文

第4章「地域づくりの考え方」

第2節「地域振興計画」

地域拠点地区においては、それぞれに文化や歴史、社会資源があります。それらを反映した地域の特性をそこに住む住民が理解し、地域の将来をみんなで考えていく必要があります。また、それぞれの拠点地域にある特性の理解を深めることによって、拠点地域間の連携が生まれ、相乗効果による活性化が期待できます。

このため、地域拠点地区において、地域づくりの考え方や地域の将来像を盛り込んだ地域振興計画を定めて、地域の特性を生かしたまちづくりを地域住民の手で進めていきます。



垂水市ホームページより

④ 総合計画とは？

まちづくりの将来像を示し、総合的かつ計画的な行政運営を図るための計画です。総合計画は一般的に三層構造となっており、約10年を計画期間としています。

④ 総合計画の構成



- ▶ **基本構想** まちづくりや行政運営の方針
- ▶ **基本計画** 基本構想を実現するための政策レベルの計画
- ▶ **実施計画** 基本計画を実現するための事務事業レベルの計画

水のある風景 本城川と用水路～

H20年度「地元のすすめ（鹿大ルネッサンスアカデミー）」発表資料のひとつ

④ 水の力 (水力発電)
 ●九州電力本城川発電所
 こんな所に「発電所」が！

① 命の水は山から

● 刀剣山に登るとおぼろ
 猿ヶ城峡谷

七岳

② 無尽の水
 汲み放題の水！
 料金は、気持ちだけ... (水神様が見ています)



● 庭屋から週1回
 汲みに来られているそうです！
 庭屋の味がしるかに...

③ 奇跡の水
 ● 水こそ健康の基本！
 ● 天然ラドン・天然ミネラルを豊富に含むアルカリ飲料！
 ● 水神様がいました！



健康と長寿に効果あり！！

⑤ 水門を守る人々

● 水門の保守点検を行う地域の人々！
 ボランティアかな？



本城川中流の水門
 「水神」と土地改良区の須田さん

⑥ 家の前の水門
 農業用水と生活排水路



昔はここで遊んでいた！

水辺環境を大切に！
 皆んなが使う水です。
 汚さないでネ！



⑦ 水辺の景色
 ● 身近にある「ホッ」とした景色



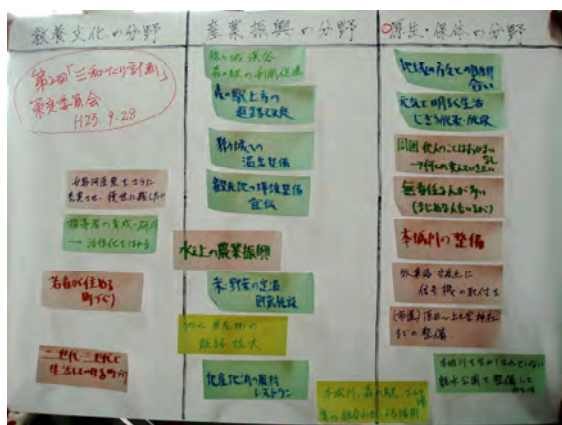
山下郎がニヤワモも...

● 先人の人々が「水開港」にかけた情熱！
 ● 地域の人々が「水」を大切に利用している！

平成20年11月8日・9日 / 山口・南須原作

策定にあたって

- ・「三和づくり計画」の策定にあたって、わたしたちは水之上地区公民館内に「三和づくり計画」策定委員会を設置しました。
- ・策定委員会は全部で12回開き、委員会で決めた3つの小委員会（教養文化、産業振興、厚生・保体）に分かれて「ひとの意見を否定しない」ルールにのっとり討論や協議を繰り返しました。
- ・その中で、地区のみなさんの意見やアイデアを採り入れたいことから、平成23年9月に「三和づくり計画」アンケートを実施しました。
- ・アンケートで寄せられた意見やアイデアは、全部で231にのぼりました。
- ・今後、わたしたちが「三和づくり計画」を見直すときに活用できるように、すべての意見等を記録した資料を計画書の「別冊」として作成しました。「別冊」は、計画書とともに水之上地区全戸に配布します。



▲ 各小委員会の様子と記録用紙（第2回策定委員会、平成23年9月28日）

(1) アンケートの実施と結果

力を合わせ
行動を起こそう
住みよい水之上を目指して

平成 23 年度水之上地区公民館（三和センター）総会資料より、「目標」

平成 23 年 9 月 17 日

水之上地区にお住まいのみなさまへ

水之上地区公民館長
「三和づくり計画」策定委員会委員長

「三和づくり計画」へのご意見・アイデア募集アンケートにご協力ください

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

わたしたち水之上地区は今年度、これからの地域づくりの考え方として、今後 10 年間の計画書をつくるため、「三和づくり計画」と名付けて計画づくりに取り組んでいます。

そこで、地区が抱える課題や将来のこと、あるいは子や孫たちに残したい水之上を地区のみなさんといっしょに考えるには多くの声が必要と考え、地域づくりに関するご意見やアイデアをアンケートのかたちで募集することとしました。農業者の方々については平成 22 年度に「農業に関するアンケート」にご協力いただきましたが、農業の分野にかぎらず、福祉や教育、産業、住環境などすべての分野でご意見等を募集します。

お忙しいところ恐縮ですが、以下、裏面の記入例をご参照の上、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

- 募集のご意見やアイデアの内容：今の水之上をどうしたいか ・ 10 年後の水之上はどうありたいか（裏面をご覧ください）
- 提出先：別紙アンケート用紙に記入して、この封筒に入れて 振興会長宅へご提出ください
- 募集の期限：平成 23 年 9 月 30 日（金）

集まった意見はその後どうなるのか

みなさんが考えた「水之上のありたい姿」を実現するために、

- 自分たちは何ができるか、地区として行政に対し何を要望するか、
- いつ、どのように行動を起こすのか、

などについて、「三和づくり計画」策定委員会のメンバーを中心に話し合いを持ち、アンケートに寄せられたご意見等を反映させながら、これからの「三和づくり」について計画を練っていきます。

【お問い合わせ先】

- 「三和づくり計画」策定委員会事務局
水之上地区公民館 ☎32-1597
- 垂水市役所 企画課地域政策係
担当者：西川（さいかわ）
☎32-1143 ファックス 32-6625

「三和づくり計画」アンケート

平成 23 年 9 月

水之上地区には、たるみず最大の郷土伝統行事「おんだんこら祭り」や、猿ヶ城の神秘的な景色、さかんな営農活動など、自慢したい良さがたくさんあります。

地区のみなさんは、地区の良さを生かし、また、今のそれぞれの取り組みを生かしながら毎日を送っています。

水之上をもっと盛り上げたい…
…でも…



進む少子高齢化…
…このままでは心配だ……

現在の水之上地区の満足具合をお知らせいただくと同時に、みなさんが考える「これからの水之上地区はどうありたいか」、自由なご意見やアイデアをお書きください。

● 回答をされた方について記入してください。

年 齢	(1) 20代	(2) 30代	(3) 40代	(4) 50代
	(5) 60代	(6) 70代	(7) 80代以上	
※いずれか当てはまる年代に○印をつけてください。				
性 別	1. 男性	2. 女性		

● 次の質問にお答えください。当てはまる番号に○印を付けたり、文章でご記入ください。

(1) 水之上地区の生活に満足していますか？

- ①満足している ⇒ ご意見・アイデアをお知らせください。
②満足していない ⇒ (2) にお進みください。
③その他 (理由、意見などお書きください) ⇒ (2) にお進みください。

(2) (1) で「②」または「③」とお答えの方にお聞きします？

満足していないことは次のうち何ですか？ 1つ選んでください。

- ①教育・文化 ②保健・福祉 ③産業振興(農業他) ④道路等の社会基盤整備
⑤その他 (内容をお書きください)

● あなたのご意見・アイデアは？いくつでもかまいません。

ご意見等が用紙に入りきらないときはご自分で用紙を足してください。

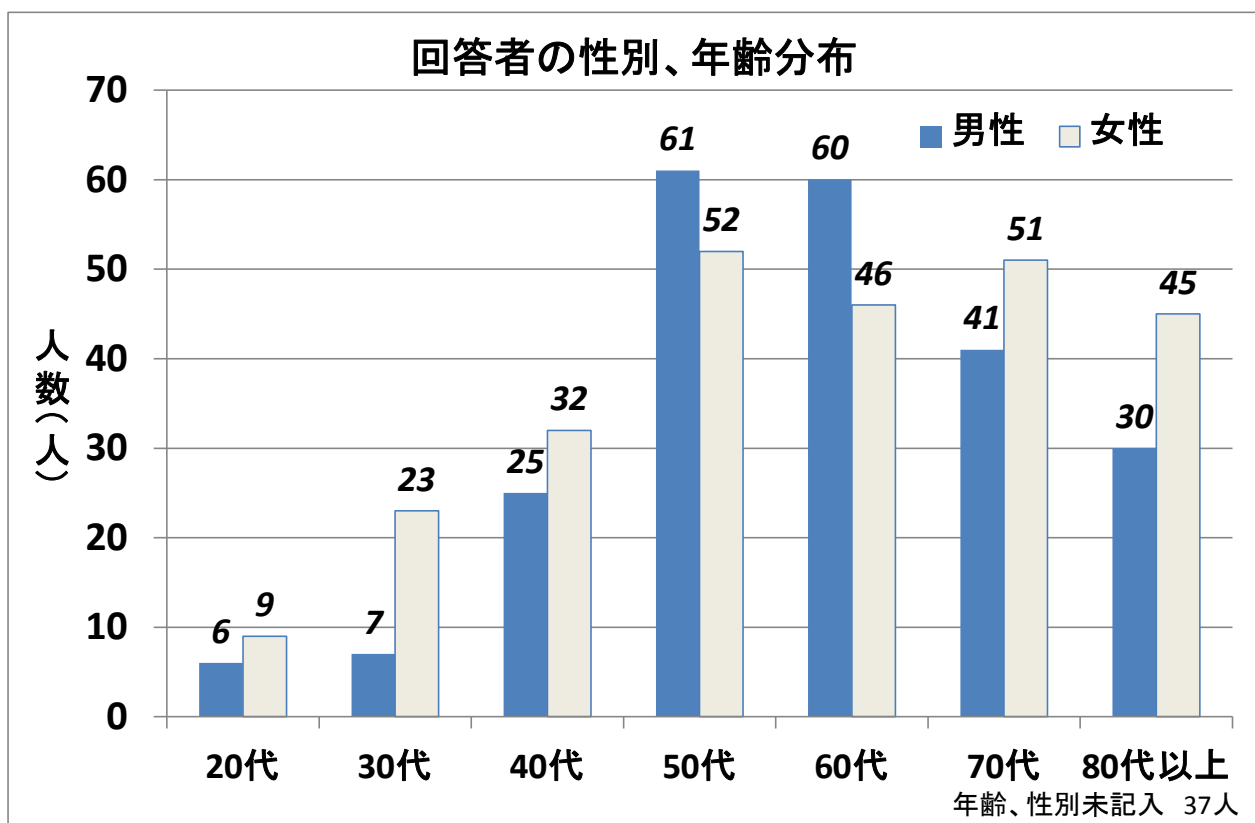
ご協力ありがとうございました。

ご記入後は **この封筒に入れて、9月30日(金)までに振興会長宅へご提出ください。**

「三和づくり計画」アンケート集計結果

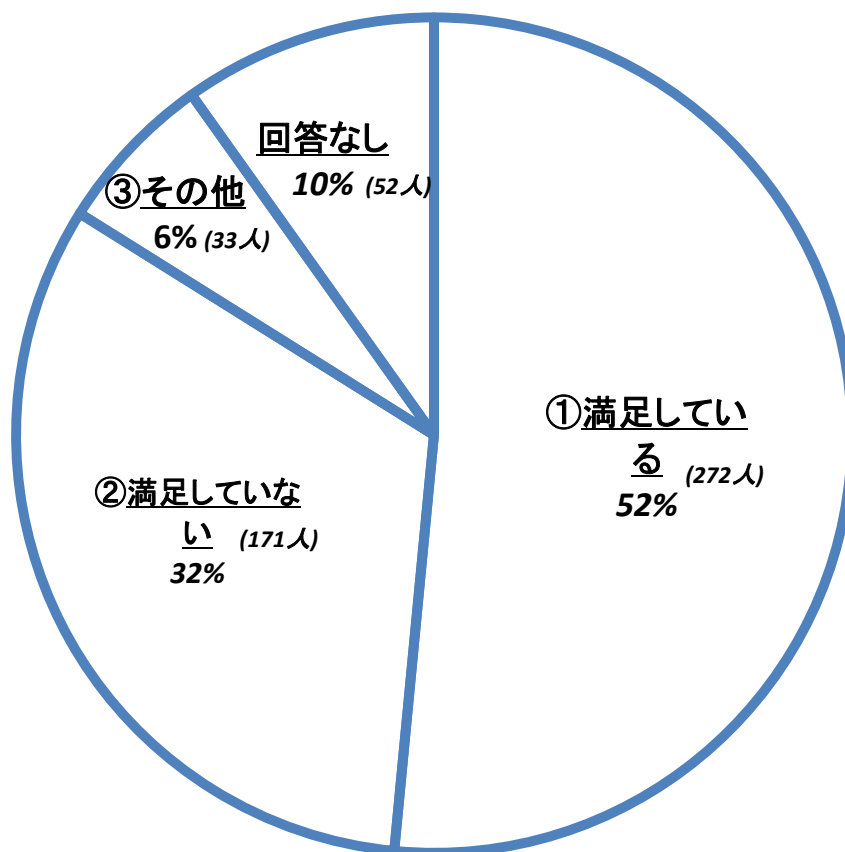
記入総依頼数	-----	746
回答数	-----	528
回答率	-----	70.78%

内訳	依頼数	回答数	備考
各振興会員	700	490	策定委員世帯は、2回依頼（振興会・策定委員会） 地域担当職員世帯は、2回依頼（振興会・地域担当職員）
三和づくり計画策定委員	34	29	地域担当職員2名を含む
地域担当職員	12	9	

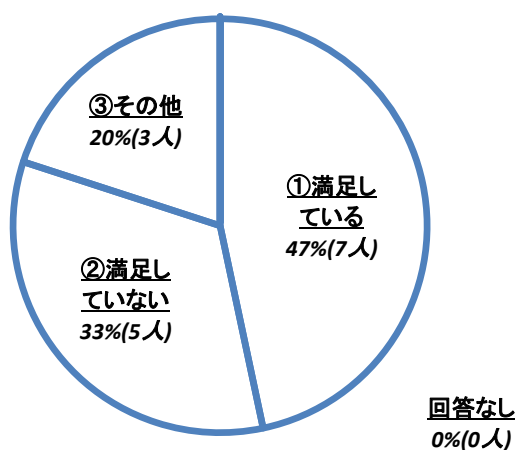


(1)水之上地区の生活に満足していますか？

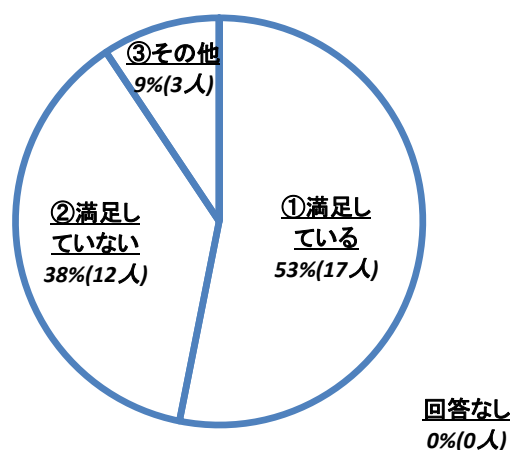
全 体



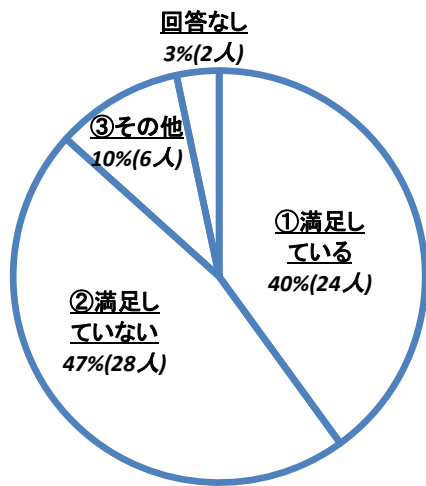
年代別 20代



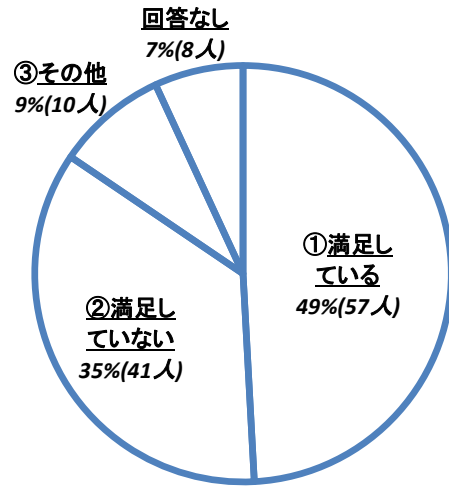
年代別 30代



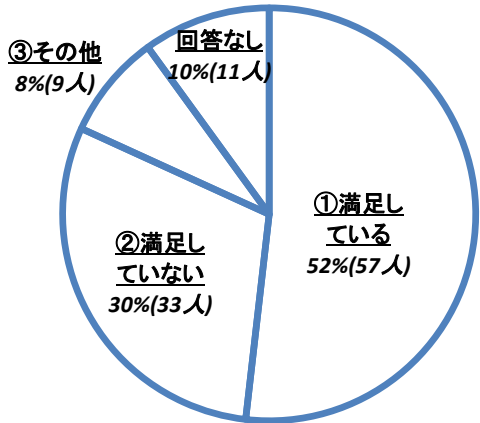
年代別 40代



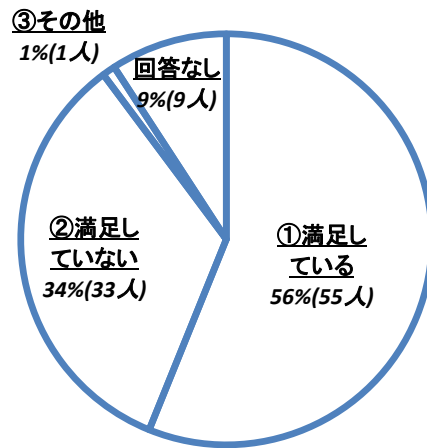
年代別 50代



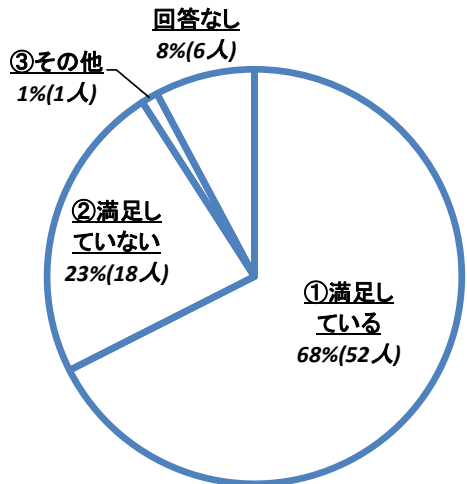
年代別 60代



年代別 70代



年代別 80代以上

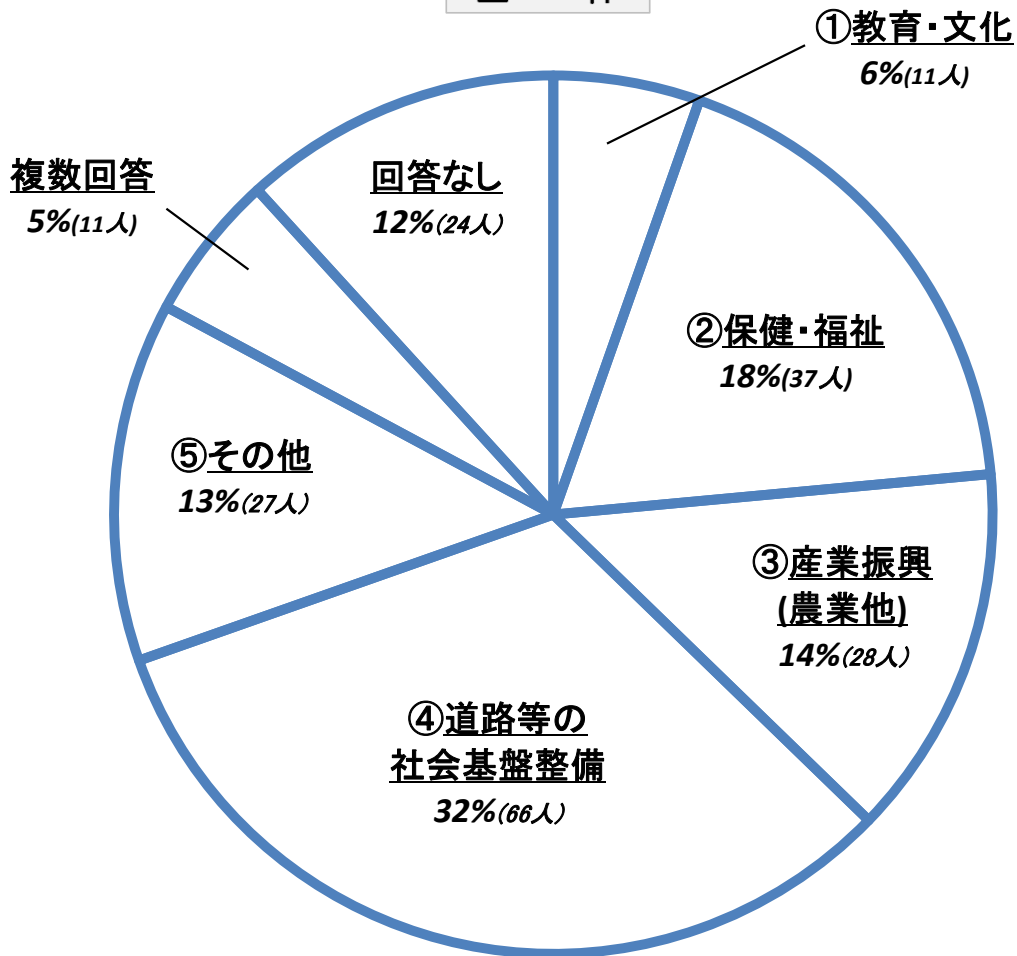


年代未記入

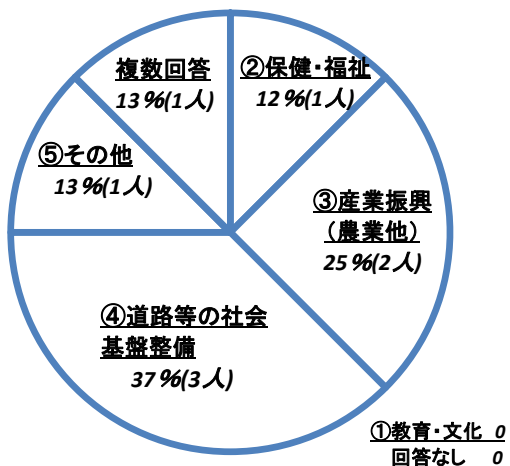
①満足している 3人
②満足していない 1人

(2)満足していないことは何ですか？

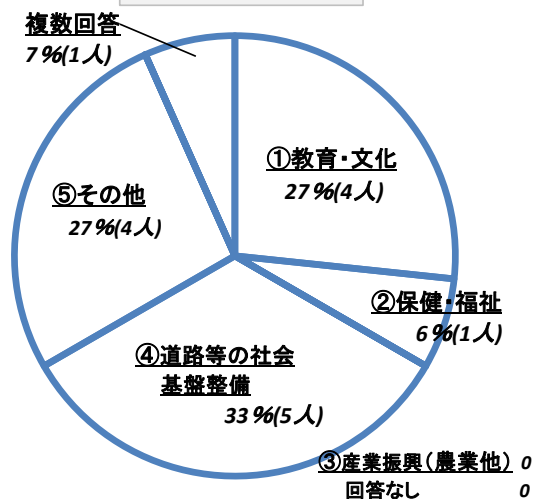
全 体

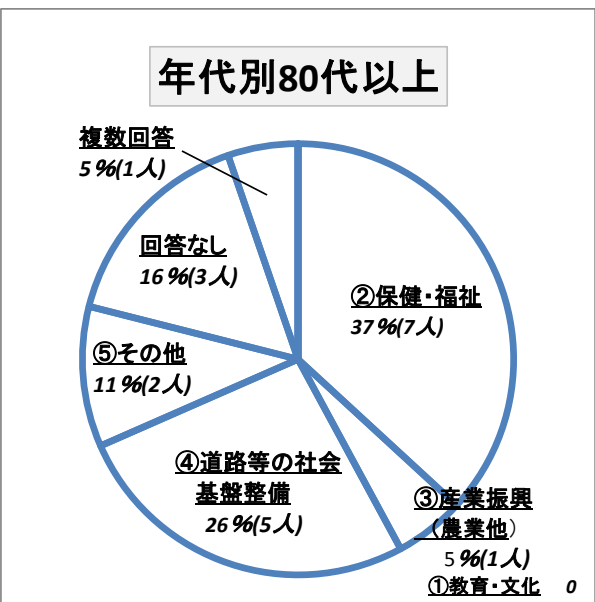
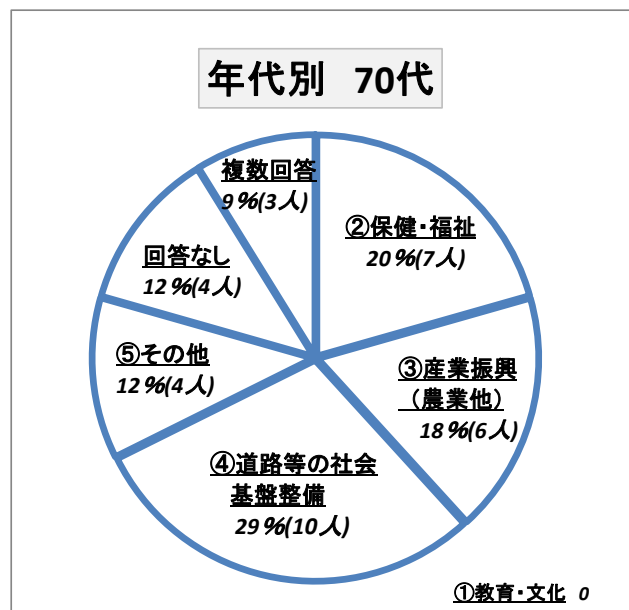
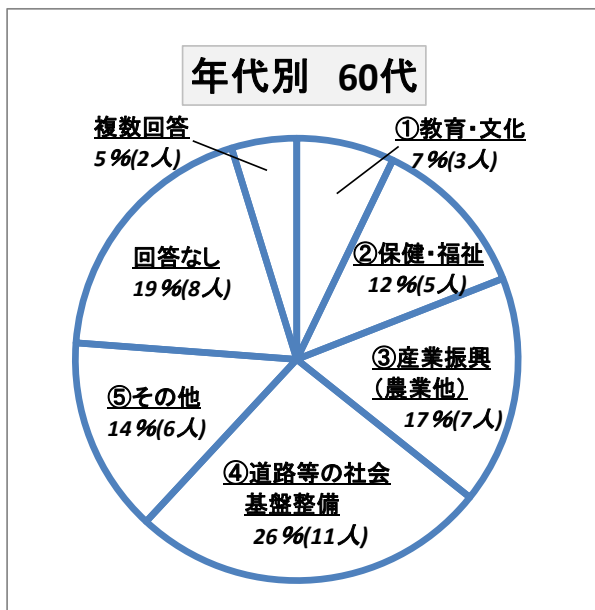
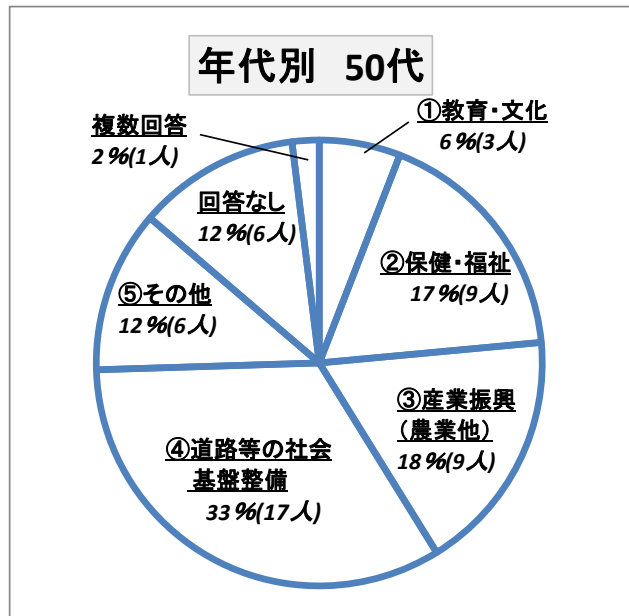
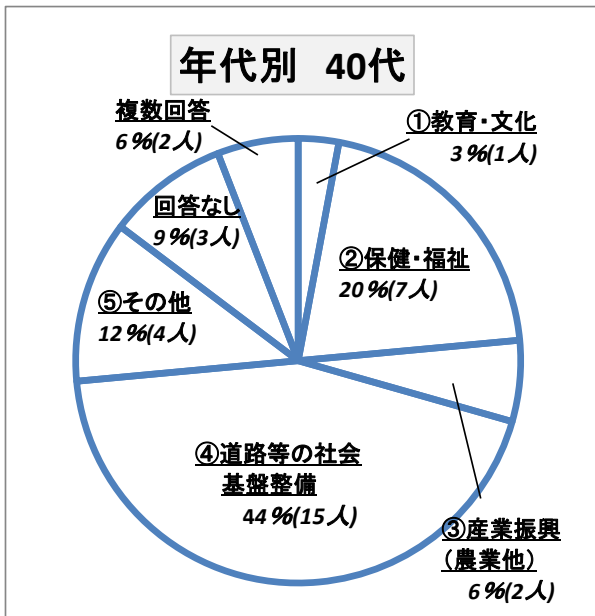


年代別 20代



年代別 30代





(2) 「三和づくり計画」策定委員会

① 「三和づくり計画」策定委員会規程

(設置)

第1条 第4次垂水市総合計画基本構想に基づき、水之上地区における地域振興計画を策定するため、三和づくり計画策定委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、三和づくり計画策定のための企画、調整及び素案・原案策定に関することについて処理する。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長、副委員長は、委員の中から選出する。

3 委員は、水之上地区公民館の総務部会構成員及び運営委員をもって充てる。

(委員長等の職務)

第4条 委員長は、委員会を代表し、会議の議長をつとめ、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長に事故あるとき又は欠けたとき、その職務を代理する。

(委員会の招集等)

第5条 委員会は委員長が必要に応じ招集する。

2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を聞くことができる。

(小委員会)

第6条 委員会に専門的事項を調査研究し、審議を円滑にするため、小委員会を置くことができる。

2 小委員会の組織及び運営については、委員長が別に定める。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、水之上地区公民館に置く。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年9月13日から施行する。



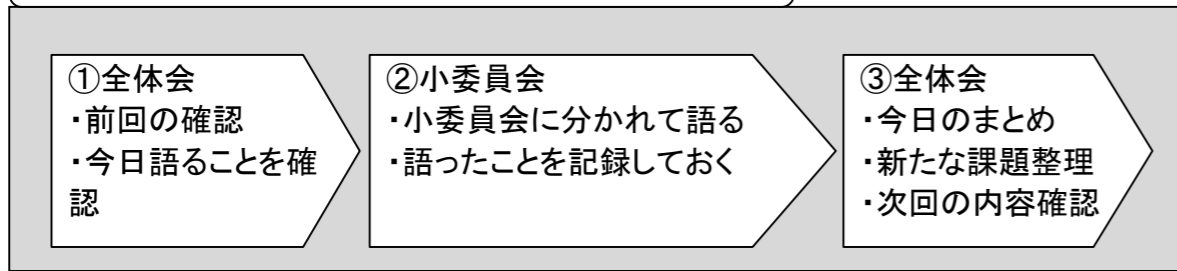
▲ 第2回「三和づくり計画」策定委員会(平成23年9月28日)

② 策定委員名簿

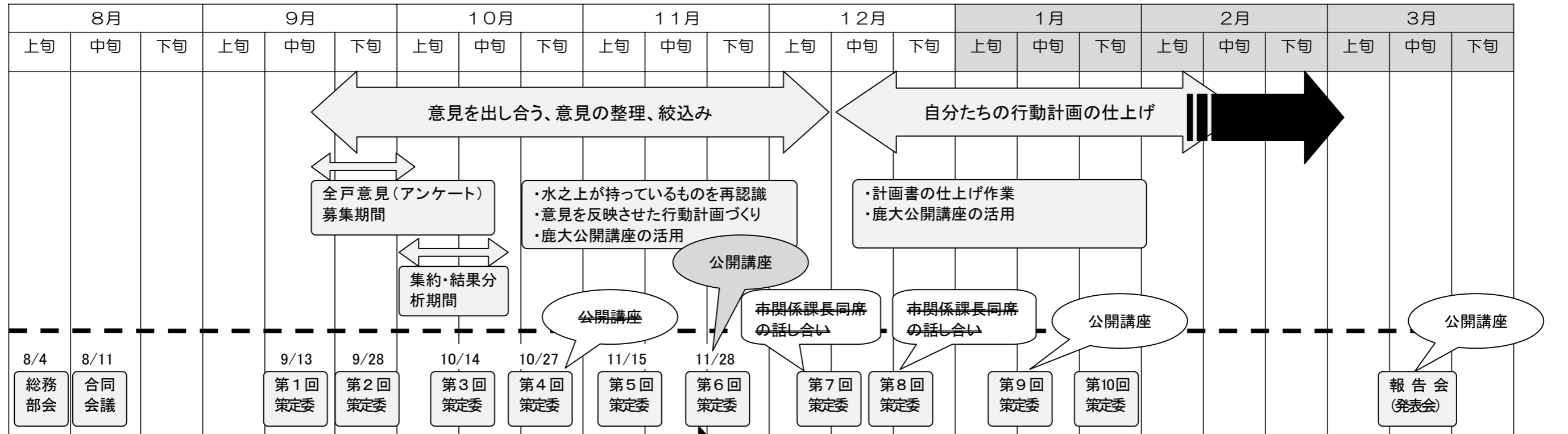
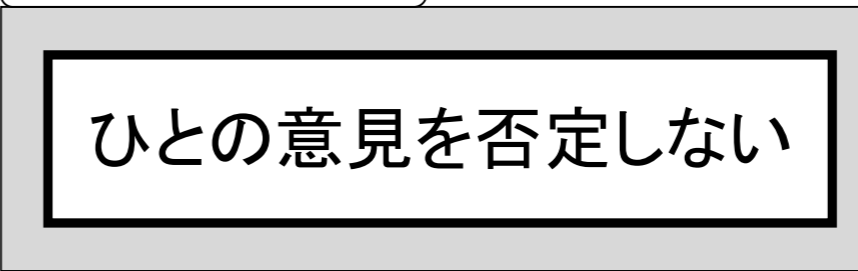
役職、小委員会		氏 名	(参考) 平成23年度 水之上地区公民館における役職名
委 員 長		堀之内 俊 一	館 長
副 委 員 長		島 児 典 生	振 興 連 会 長
		中 馬 英 機	主 事
① 教養文化小委員会 (12名)	小委員長	楠 木 雅 己	地 域 担 当 職 員
	委 員	池之上 誠	監 事、市 議 会 議 員
	委 員	井 川 秀 人	書 記
	委 員	神 野 忠 久	監 事、小 学 校 長
	委 員	瀬 脇 幸 一	体 育 指 導 員
	委 員	井 川 久美子	婦 人 部 長
	委 員	馬 場 隆一郎	小 学 校 教 頭
	委 員	中 村 誠	水 之 上 駐 在 所
	委 員	鳥 原 臣 平	民 生 委 員 代 表
	委 員	堀之内 百合子	会 計
	委 員	川 添 睦 子	生 活 改 善 代 表
	委 員	堀之内 俊 一	館 長
② 産業振興小委員会 (10名)	小委員長	神 田 勝 良	消 防 後 援 会 会 計
	委 員	園 田 優	長 寿 会 長
	委 員	瀬戸口 良 二	補 導 員、体 育 指 導 員
	委 員	前 田 宰	監 事
	委 員	嶽 釜 虎 男	郷 土 研 究 会
	委 員	永 瀬 克 己	消 防 分 団 長
	委 員	中 条 充 夫	農 業 委 員
	委 員	野 下 治 巳	交 通 安 全 会 計
	委 員	上 田 誠 志	緑 の 少 年 団
	委 員	中 馬 英 機	主 事
③ 厚生・保体小委員会 (12名)	小委員長	田 原 正 人	振 興 連 会 計
	委 員	鳥 原 桂 子	婦 人 部 副 部 長
	委 員	横 山 二三男	振 興 連 副 会 長
	委 員	小 川 健 一	交 通 安 全 会 長
	委 員	杉之尾 俊	保 育 園 長
	委 員	淵之上 栄 一	消 防 後 援 会 長
	委 員	岩 切 利 美	振 興 連 防 犯 係
	委 員	田 中 昭 弘	小 学 校 PTA 会 長
	委 員	前 田 克 義	郷 土 研 究 会 会 計
	委 員	谷 山 まり子	育 成 会 長
	委 員	中 馬 知 佐 子	婦 人 部 会 計
	委 員	島 児 典 生	振 興 連 会 長

③ 策定スケジュール

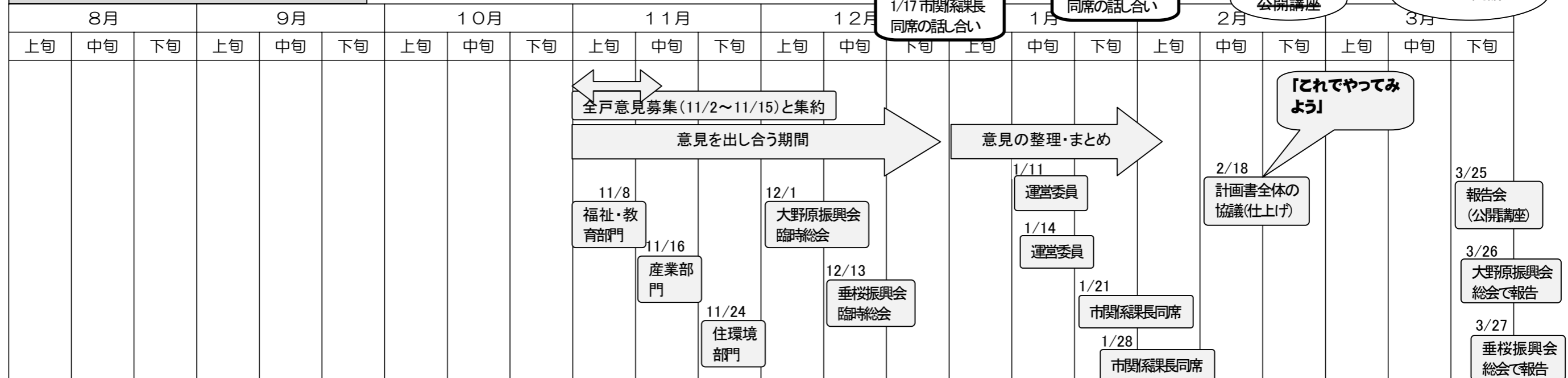
○ 策定委員会の会議の組み立て例



○ 策定委員会のルール

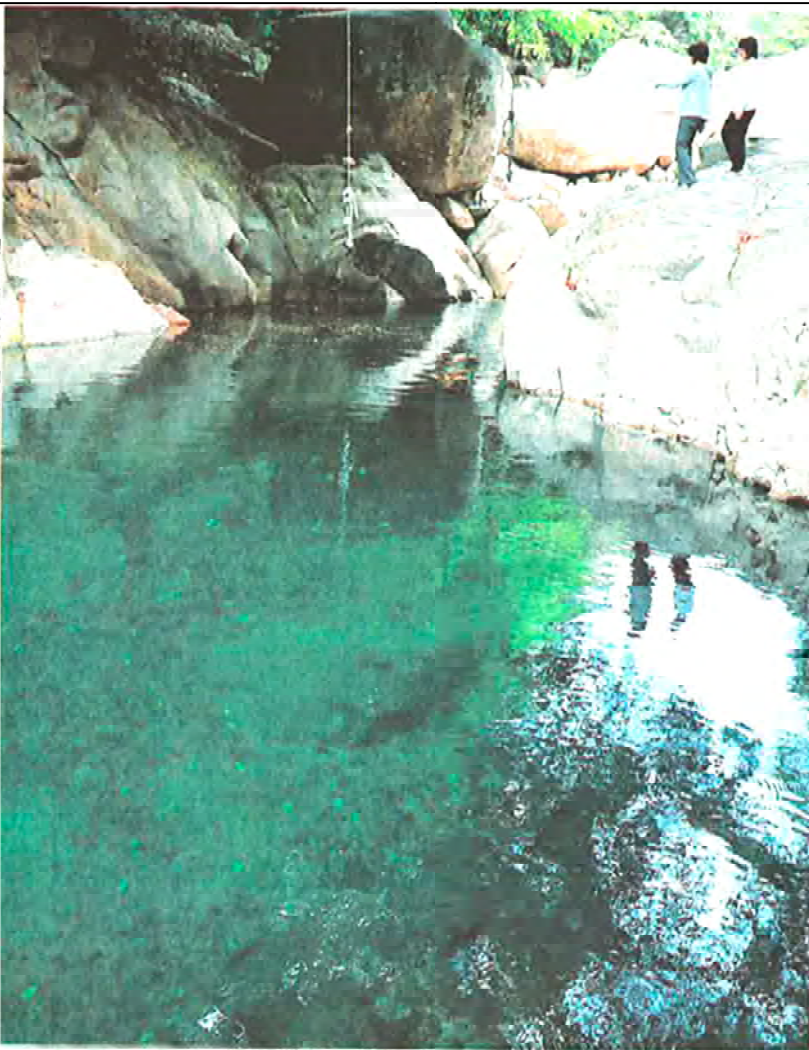


(参考)
平成22年度大野地区の取り組み



○「猿ヶ城溪谷」の魅力を紹介(平成二三年五月二日 西日本新聞)

水深30cm以上ある淵ヶ淵。透明度が高く、エメラルドグリーンの清流が美しい



鹿兒島県・大隅半島の高隈 岩場から飛び込む格好の遊歩山系から桜島南側の鹿兒島湾 場という。この一帯が猿ヶに注ぐ本城川。鳥の鳴き声が 城渓谷だ。

響く中、川沿いの遊歩道を進 巨岩や奇岩が連なり、落差 8 級の「取しらの滝」や巨 大な一枚岩の「白壁の床」な むと、澄み切ったエメラルド グリーンの水をたたえる「鱒 中心部に近く、家族連れも手 ケ淵」に目を奪われた。深さ 3〜4 尺。川底も見える透明 度で、地元の子もたちは 夏場には水遊びが上って追方 も増す。高隈山系への登山に 加え、ウエットスーツを着て 沢を滑り下る「キャニオン ング」も催されている。

深谷のそばには、団体客も 利用できるコテージやテント 場、野外調理設備などを市 が整備した「森の駅たるみず」 があり、キャニオニングをは じめ、多彩な体験型プログラ

初夏のお薦め
九州各地から 2011 年 5 月 15 日

○「水土里サークル」の活動紹介 (平成 23 年 7 月 16 日 南日本新聞)

共同活動支援継続を



「水土里サークル活動」事例発表者と第三者委員会による総合討論 15 日、鹿兒島市の宝山ホール

農村の自然と環境保は、国の「農地・水保 全を旨とする地域住民の全管理支払交付金」対 共同活動を支援する策(当初の名称は農地 「水土里サークル活動」・水・環境保全向上対 のシンポジウムは 15 策)の県独自の愛称。 日、鹿兒島市で開かれ 一部活動については 県内 529 ある各 新たな交付金を使って 地の組織や町村担当 15 年度までの支援が決 者ら約 860 人が集まったが、従来の共同 加。国の時限事業である 活動への支援がどうな る同活動は今年最終年 度は未定。サークル 度に当たるため、活動 活動の第三者委員会と 組織からは支援継続を の総合討論では、事例 発表者から「かゆいと 水土里サークル活動 ころに手が届く事業。 せび継続を」「書類作 成を簡素化するべき だ」などの要望が続い た。

猿ヶ城溪谷 巨岩、奇岩連なる清流

●森の駅たるみず 鹿 兒島市から垂水市までの 移動手段はマイカーやバ ス(フェリー線)が一 般的。バスは、鹿兒島 中央駅や繁華街の天文館 から鹿屋市行きの直行で 約 1 時間。鹿兒島港か らはバスで約 80 分。垂水 市中心部から森の駅まで はタクシーで約 10 分。コ テージの利用や体験型プ ログラムは申し込みが必 要。0994(333)9 601。

初夏のひとつきを青い海 で、森の中で過ごしてみませ ぬか。九州各県の記者がお薦 めする各地の観光スポットを 紹介します。

事例発表では 7 組織 が登壇した。垂水市の 本城地区資源環境保全 会は、学校教育や地域 住民と連携した実績を 紹介。地元小学校との 米作りで環境形成に取 り組み、ワークショップ では、地域資源の発 掘や課題を確認する 「夢マップ」を作った ことを報告した。

○水之上小学校の活動紹介
(平成23年11月4日 南日本新聞)



◆垂水市で錦江湾ク
リーンアップ作戦 10
月23日、同市の終原海
岸であり、水之上小学
校の児童ら約80人が参
加した。県や鹿児島湾
岸の自治体などでつく
る、錦江湾みらい総合
戦略推進協議会の活動
の一環。参加者は、飲料
用プラスチックや金属破
片など品目ごとに集計
を取りながら
分別し、計約
100kgのご
みを集めた。
同小6年の坂
元健人君(12)
は「ボトルや
買い物袋が多
かった。でき
るだけごみを
出さない生活
を心掛けた
い」と話した。



垂水市の「垂水千本イ
チヨウ」が見ごろを迎え
ている。市街地から高峠
方面に向かう県道沿いに
あり、街からも望める黄
金色の輝きに引かれ、県
内外から多くの家族連れ
らが訪れている。今月中
旬まで楽しめそう。

千本イチヨウ 垂水で見ごろ



イチヨウは約4・5ha
の敷地に1200本並
ぶ。同市新御堂の農業中
(2)の手を引きながら
初めて訪れた都城市の
会社員、川越洋介さん
(33)は長男の幹太ちゃん
が駐車場を整備した。

黄金のトンネルのような
イチヨウ並木
11月3日、垂水市新御堂

馬吉昭さん(69)、信子さ
ん(68)夫妻が33年前から
荒れた山を開墾し、植え
続けた。昨年度は県景観
大賞を受賞し、今年、県
没から午後8時までライ
トアップする。

○「垂水千本イチヨウ」の紹介(平成二三年一二月四日 南日本新聞)

策定経過

主な取組	日付	会議の名称	参加者数
・計画づくりに対し、組織的な了承を得る	H23/5/20	地域振興計画づくり事前協議	5名
	H23/6/10	水之上地区公民館第2回総務部会	16名
	H23/6/17	水之上地区公民館第1回合同会議	82名
	H23/8/4	水之上地区公民館第3回総務部会	18名
	H23/8/10	水之上地区公民館第2回合同会議	62名
・規程、アンケート実施の承認 ・計画策定取り組みスタート	H23/9/13	第1回「三和づくり計画」策定委員会	25名
・小委員会の議論を中心に意見やアイデアを出し合う ・アンケート結果を分析し、「水之上はこうありたい」の整理、絞り込み作業を行う ・意見を反映させた行動計画づくり	H23/9/28	第2回策定委員会	35名
	H23/10/14	第3回策定委員会	35名
	H23/10/27	第4回策定委員会	33名
	H23/11/15	第5回策定委員会	36名
	H23/11/28	第6回策定委員会(鹿児島大学公開講座)	38名
	H23/12/8	第7回策定委員会	31名
・整理された行動計画等を全体会で確認	H23/12/13	第8回策定委員会	34名
・市関係課長等も同席した話し合いで、掲載内容を補強する(全体会のみ)	H24/1/17	第9回策定委員会 ※「森の駅たるみず」で開催	39名
	H24/1/24	第10回策定委員会	44名
・計画書の仕上げ作業	H24/2/22	第11回策定委員会	31名
・地域づくり先進地に学ぶ	H24/2/25	先進地調査研修(始良市)	23名
・計画書の仕上げ作業	H24/3/2	第12回策定委員会	27名
・活用策、課題、展望	H24/3/22	報告会(鹿児島大学公開講座)	67名



▲ その日の討論結果を発表する各小委員長(第3回策定委員会、平成23年10月14日)



・始良市北山校区の肥後利治会長の講演を聞き、共生・協働の地域づくりについて学びました。

・「三和づくり計画」をもとに、水之上地区も動き出します。

・参加者数

「三和づくり計画」策定委員会委員 12 名、公民館役員8名、行政関係者3名、合計 23 名

▲ 先進地調査研修(始良市北山校区地域コミュニティ協議会、ほか 平成 24 年2月 25 日)

あ と が き

市役所企画課から、第4次垂水市総合計画に沿って、市内9地区でそれぞれ地域振興計画を作成してほしいとの話が舞い込んで参りました。事前協議を重ねた結果、名称を「三和づくり計画」として地域の皆さんの同意を得て、住民自らの手で「10年後はこうありたい」という地域振興計画づくりに着手することになりました。

平成23年9月13日の第1回「三和づくり計画」策定委員会を皮切りに、毎月2回の会合を開催し、地区内全戸を対象にしたアンケート調査から地域の課題を見出し、それを基に3つの小委員会で検討した結果、13のキーワードと22の「水之上はこうありたい」という形で、平成24年3月2日開催した第12回策定委員会で行動計画(案)としてまとめ上げ、地区公民館総会で承認を得る運びとなりました。

行動計画の中にはすぐには結果に結び付かないものもありますが、できるものから着実に歩を進めて行けたらと考えております。

最後に、多忙の中最後まで計画づくりに携わっていただいた策定委員の皆様、市役所の企画課長さんをはじめ関係各課の職員の皆様に心から感謝申し上げます。

「三和づくり計画」策定委員会委員長 堀之内 俊一
(水之上地区公民館長)

力を合わせ、行動を起こそう
住みよい水之上を目指して
～ 三和づくり計画 ～(初版)

発行年月 平成24年3月
編集・発行 水之上地区公民館
「三和づくり計画」策定委員会
〒891-2112
鹿児島県垂水市本城 1355 番地 1
☎0994-32-1597
協働制作 垂水市役所関係各課
水之上地区地域担当職員
企画課地域政策係
印刷 有限会社 垂水中央印刷

